うたかた

十文字
哥と詞と名ぶり

[V. 20]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 20
copy 1
Asian
Japan
Cage

2004551302

源氏廿一 文九月ら冬ま
秋院 槿ノ秋院又ノ桃園ら云ふね
源
おとづれ
いのおぼつかなくあめれとひろげ
槿秋院ム
てうちながめ給ふ
源ム
ものうちかしこまりて
槿ノ
桃園ノ方ともいふ
文のそこはかとすさめ給ふを
槿ノ
つくづくとながめ給ふ
桐壺ノ方ヲ指ス門
院のこのころをだにいとまれ
槿ノ
やんごとなくもてなし給ふ
槿ノ
つづくづくと
槿ノ方 女ノ方
ひんぐ

…ぜ…ぬ…ぬ…ぬ

ん〳〵てはれをうちそこなひ（傍注）いまさらくやしくもちさりとてすてもえられずうちなげきてゐたるに（傍注）ほのうらうらとてらしたるに（傍注）

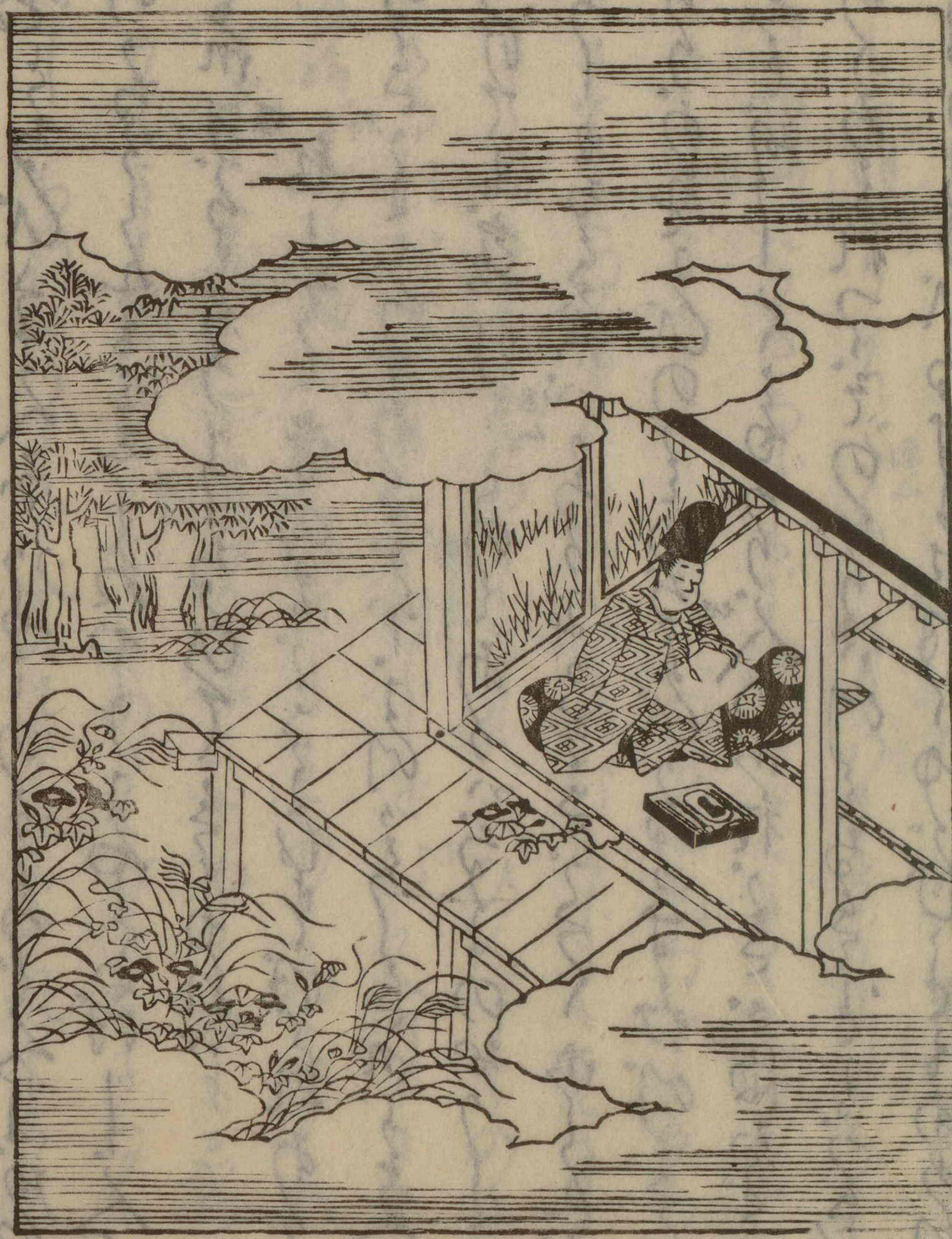
さをゆみてんとそでをみこ（傍注）うりありしせいこれをとりてもちさらくやしくもちさりとてすてもえられずうちなげきてゐたるに（傍注）ほのうらうらとてらしたるに（傍注）

とこゝろしづかにのべうち（傍注）れとこゝろさわぎつゝ（傍注）

人（傍注）それぞれ我のゆさをよせ（傍注）

ちさよ紙すぢすれ（傍注）

（撰）
（撰ノ如ク）
（添）
（撰ノ如クニ）
（此）
（添）

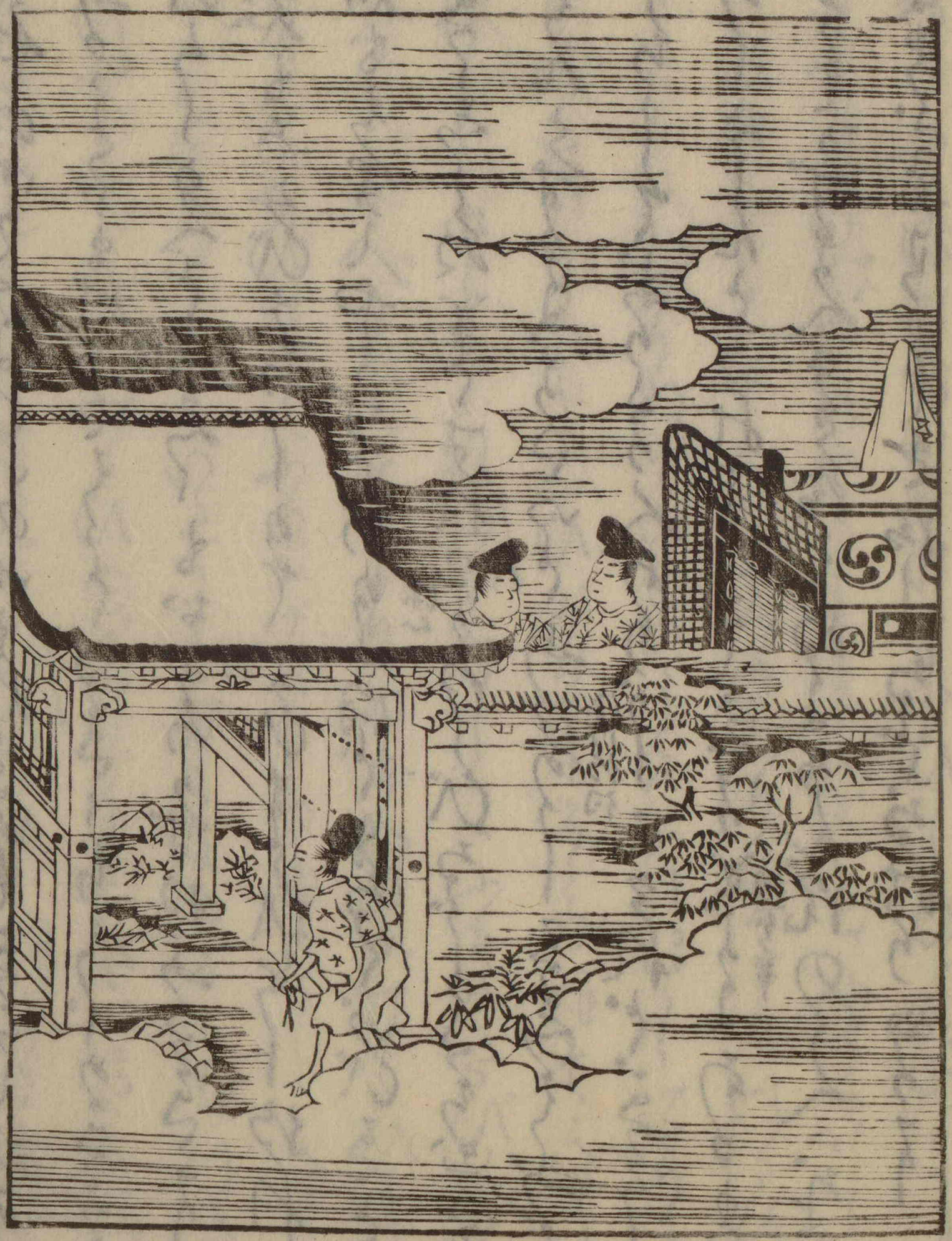


撰ん
をとゝびてまつへる
のうるはしんもこゝろ
やすくおぼえ侍れば
もれすぐるまでとりまぜ
撰
私にそへ書のぞかれ
ありさまうつくしきを
のりてもかゝりくとも
みもてゆく式(法ん)いとめ
り。おをまびのこゝろ
もおもしろくきこえ
つゝそれてそのゝち
しまびまつ

（ほノ）
（宛も撞も文ノ字なる如し）
（撞ハ）
（宛と添ノ）
（添ノ）

そこてのそげれば（添）出のあ（添）ろもけろ
ちを。ーろくてすぐーけろと。このひでそて
ゆくりよびろやぞどろもられど。ろあひろろり
このまーくろろくんろて。きのひろりよろぐく
えんろろやすぐろをこぐて。ゆもろりれま
きり話くぐと。ゆびあ（添）ばまれ（添）ばんなば
えのびやろろぐろりーて。汙ちろりはれあり
ばそそこ（女ノ）ゆもそて（地図）ゆしも。式々のわは。幸ぜい
ゆづろそーいろを。今（女ノ）いそのひろばそーの話も。
もりはこぐ（添）ばろぐくるものへ

ほんのくさ
をぢいそやれすく
そぶのうぐいすぞおくれ
やきあへりなかのふかり雨もろぐ〜とふる
れどいでたちぬ人のれさもあひて家のお
もうさむげろけそこあれおのこそもあるら
えのけやぶほんれとうのみおのこそもあるら
べーこぐひそのこそうぐいすぞ
それがおとおれとうぐいすぞ



（ほん）
ぼん一ぜんの酒肴（さかな）の
ありて、この女（おんな）やのれ
ば、うらの面（おもて）まであんな
あさましうもありぬ。（行）そ
ありもの、もてこさ
うれこそ、ふるまひ
もぐこのへうそ
（ぼん）
ぼんぢやうのひとり
まゝまてあつて
もひやうこそづ
うらざわんとのれ

（ママ）
ゐしころまでもころおいのやうよ。今
もむかしのひろうへられも表ちり。
これらうりいどころ
すゝるくゆのあるはひろくてころころ
そぞろへなるもあべうりへ（なづ）のやうなどの
そひよ。おくまでとのこ
分れのうりすゝちびくも。把そろくる
そゝろへのいさとまうりて。のどやかなるひもも
ちゝてそぞけるをすべてうびめるを
ちりとおぼそよ。地おくろ
ゆうそのて。（門付ノ）

(本)
(槿)
(村)
(本心)
(村)

人のこころもあげをかく
まるくそそぎてひとしく色こそえつくされうる。
ちりぬれうる前栽のつぼにあげうるごうやうや水もい
とうるはしびて流の水もえもいはずをごそき
ま。つくべうるしてをうるごうもうるせる。
ありげうるすごうらうさどもなまへ
てあるやうやうるれうかがそ風ぐのあ
それをあびしごうけうさそれおそごう風
めうるうこそあまれうえのそ忘
うさをそもてまそやうあいと
りざやうるうそはつそびてうるび

そもそも、おのおのがたは、
かの、ぎょうぎょうしき、
ひげだんなを、
へ東のひまちまで、
つれ出だして、こころまちげる

さぐりのあぐひあり
ぬくぬくとつづさ
ろのおとびたく
そいさつへびそ
めれどそうとび
くくさめすこまへる
ぬくぬくん（撞木杉）
ぬぐぬくぬくぬく

69038
6AP7B